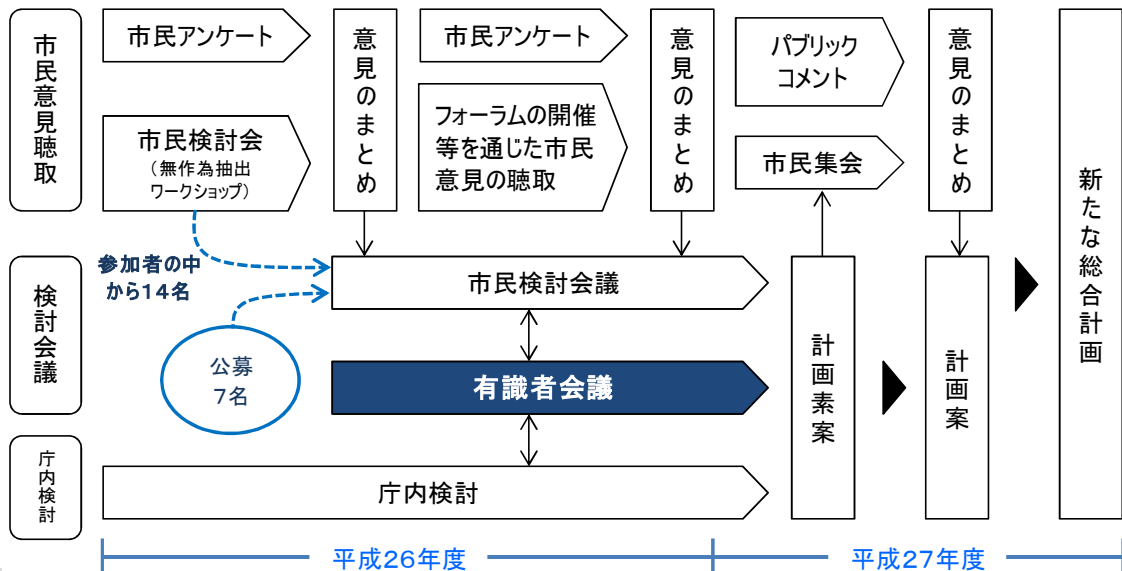


# 川崎市総合計画有識者会議 第6回会議 開催結果概要

日時:平成 27 年7月 10 日(金)18:00~20:00  
会場:川崎市役所 第4庁舎 第3会議室

## 1. 「川崎市総合計画有識者会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、専門的な意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画有識者会議」をスタートし、それぞれの政策分野の重点テーマを中心に検討を行いました。
- また、新たなアイデア等を創造する場として、ゲストアドバイザー等を招いた「ラウンドテーブル」を各回の会議と並行する形で開催しました。
- 市民の声を幅広く集める取組である「川崎市市民検討会議」を並行して開催し、その市民委員が有識者会議に参加するなど、検討内容を共有化しながら議論を進めました。
- 最後の有識者会議及び市民検討会議では「新たな総合計画素案」のたたき台について御意見いただきました。



## 2. スケジュールについて

- 平成 26 年 10 月 27 日 (開催済) 第 1 回会議 (策定方針、全国的な動向、市の概況)  
 10 月 29 日 (開催済) 第 1 回ラウンドテーブル (医療・介護連携)  
 11 月 27 日 (開催済) 第 2 回ラウンドテーブル (社会デザイン)
- 平成 27 年 2 月 1 日 (開催済) 第 2 回会議 (社会福祉、子育て支援・教育等)  
 3 月 13 日 (開催済) 第 3 部ラウンドテーブル (都市拠点・交通体系)  
 3 月 23 日 (開催済) 第 3 回会議 (まちづくり・防災・みどり)  
 4 月 20 日 (開催済) 第 4 回ラウンドテーブル (イノベーション)  
 5 月 7 日 (開催済) 第 4 回会議 (環境・経済・文化・スポーツ)  
 6 月 12 日 (開催済) 第 5 回会議 (市民自治)  
 7 月 10 日 第 6 回会議 (素案について) ※最終回

### 3. 委員

- 会議は下記の各分野に専門性を有する有識者により構成されています。

氏名（敬称略）	分野	役職等
涌井 史郎（座長）	ランドスケープ・環境	東京都市大学 環境学部 教授
出石 稔（副座長）	地方自治・地方行財政・コミュニティ	関東学院大学 副学長・法学部 教授
秋山 美紀 ※	社会福祉・ソーシャルデザイン	慶應義塾大学 環境情報学部 准教授
垣内 恵美子	文化・教育	政策研究大学院大学 政策研究科 教授
中井 検裕	都市計画・交通計画	東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授
平尾 光司	地域経済・産業振興・イノベーション	昭和女子大学 学事顧問

※は欠席

### 4. 第6回会議（7/10）の開催結果について

#### (1)新たな総合計画素案について

- 有識者会議や市民検討会議等の意見を踏まえた「新たな総合計画素案策定資料」について、事務局から説明を行いました。

#### (2)主な意見

##### \*素案全体の印象・評価について

- これまでの川崎市の発展を反映して、歴代の総合計画の熟度は順次上がってきている。新たな総合計画も21世紀の川崎モデルとして世界に発信できるものが出来つつある。
- 総合計画は行政計画として総花的にならざるを得ない部分があるが、その中に込められたメッセージに川崎の特徴がよく出ており、総合計画としては出色の出来だ。
- 有識者会議、市民検討会議から出た多くの意見を反映しながら、わかりやすくまとめられている。
- 図表が多く、ビジュアルに訴えかけるつくりは、とてもわかりやすい。

##### \*計画策定プロセスについて

- 今回、多くの市民を巻き込んで作った、とても素晴らしく、ユニークな計画なので、そのことを最初にきちんと記載すると、市民の計画へのモチベーションがあがり、市民に共感してもらえる計画になるのでは。
- この計画は、市民に行政計画に対する同意を求めるような、トップダウン型の計画策定プロセスではなく、市民や有識者などが様々な対流を起こしながら市民視点で策定したチャレンジングな計画であり、その策定プロセスをきちんと記載しておくべきである。

##### \*指標の設定について

- 実施計画に向けて、実感指標と成果指標との相関関係が保たれているかチェックしてほしい。現時点では、相関関係がよく分からないものも見受けられるので。
- 実感指標の目標値は、全政令市中最高値を目指すものと、平均値を目指すものがある

が、イノベーションなどの項目はわりと高く、市民生活に身近なものは低いように見える。現在平均以下のものについて、一律平均値をめざすのではなく、これは平均値でいい、これは平均値以上がいいなど、川崎のめざす方向を明確化しながら目標設定を進めるとよいのではないか。

#### \*計画の構成について

- 計画書として、将来を見据えて乗り越えなければならない課題と政策が対応しているかどうかチェックしてほしい。
- 政策5-1の中で市民自治について記述があるので、ここから区計画へとつなげればよいのではないか。
- 区計画や市民から市民へのメッセージは、他の内容とスタイルも文章も違い、やや唐突感があるので、章と章をつなぐ工夫が必要。各章の目的や計画書全体の中での位置付けなどの説明を入れた方がよい。

#### \*個別の表現等について

- イノベーション都市である川崎として、市民にとって身近な概念ではないイノベーションが、なぜ「最幸のまちかわさき」に必要なのか、もう少し説明が欲しい。「最幸のまち」になるための条件はいろいろあるが、「働いて所得が得られる」ということはかなり基本的なことで大事。働いて高い年収を得られるというメリットを感じられるようにするとよいのではないか。
- 雇用と収入を確保し続けるためには、常に新しい産業が生まれてくるような都市経済が必要となる。新しい産業の創成には、起業支援（インキュベーション）による起業家（アントレプレナー）の育成が重要である。
- 川崎市は文化・芸術に関わる消費が全国1位、アーティストの数も東京都区部を除けば1位と認識している。文化面の取組が全国的に衰退している中で、川崎市は上向いており、50年後には「断トツ」になると思われる。文化・芸術はイノベーションを生み出すために必要な要素の1つでもあり、今後の、川崎市の重要な指標になる。
- これまで文化・芸術は、産業との関係性においてみれば、企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility）による副産物の1つだったが、近年は、商品、製品における感性価値のウエイトが高まっており、文化・芸術の創造そのものが、企業の本業と合致するという構図（共通価値の創造（CSV:Creating Shared Value））がみられる。こうした文化と産業の新しい関係を共通認識として持つてほしい。
- 川崎市に対する市民のイメージが、「公害のまち」から「音楽のまち」へと変わってきており、「住みやすく、活力にあふれたまちや音楽のまち」などの形で、新たな総合計画に掲載してほしい。
- 「平成25年版 大都市比較統計年表から見た川崎市」の結果を掲載して、川崎市のポジショニングを明確化してはどうか。また、川崎市や全国平均がどのような形になっているかレーダーチャートで示すとわかりやすい。
- 「産学交流」は、通常、「産学官交流」あるいは「産学公交流」と表現されるので、これらの表記に合わせた方がよい。

**\*今後、川崎市が目指すべき方向性について**

- これからの川崎市の人口動態においては社会増だけでなく、自然増も大事。ぜひ出生率を上げてほしい。
- 国土審議会では、消滅都市をどうするかといった議論がメインで、そういった都市を「どう看取るか」という議論もあったほど。川崎はポテンシャルが高く未来が明るい。みんなが幸せになれる川崎市をめざしてほしい。
- 成熟社会を迎えた日本をリードするモデル都市として、さらに躍進してほしい。



委員と市長による意見交換の様子